

秘

陸密第一〇七〇號

昭和十九年四月六日

(甲)

昭和十九年度第一次採用幹部候補生集合教育ノ爲ノ分遣(轉屬)及第二、第三次採用等ニ關スル件達 陸軍一般

普通ノ件ニ關シ左ノ通定ム

昭和十九年三月十七日

陸軍大臣

第一次採用幹部候補生集合教育ノ爲ノ分遣(轉屬)區分附表第一ノ如シ

分遣(轉屬)ノ爲ノ携行兵器附表第二ノ如シ

第二、第八方面軍、第三十一軍、第二十七軍所屬ノ者ニシテ分遣困難ナルモノハ各軍毎ニ當該最高指揮官ノ定ムル所ニ依リ八月以上教育スルモノトス

二 第一次採用者集合教育ノ爲ノ分遣(轉屬)期日及期間竝ニ第二次採用者ニ對スル階級附與期日修業期間附表第三第四ノ如シ

三 第二次第三次ニ於ケル採用ニ關シテハ左記ニ據ルノ外昭和十八年陸密第四七六八號「昭和十九年度幹部候補生ノ採用取扱ニ關スル件」中第一次ニ於ケル採用人員ニ關スル規定ヲ準用ス

出張

各所管毎ニ幹部候補生有資格者數ノ概ネ八〇%(兵科及經理部幹部候補生ニ在リテハ甲種概ネ五〇%乙種概

新. 湯. 0124

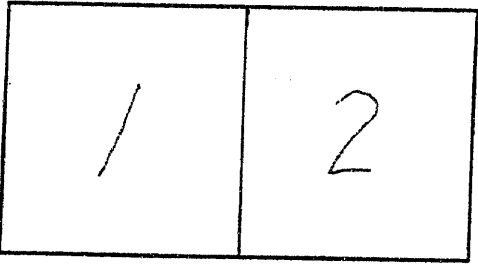

ネ三〇%ヲ最大限度トシテ採用ス

(2) 所管長官ハ幹部候補生有資格者ノ素質ニ應シ(1)號ノ限度内ニ於テ採用率及甲乙種比率ヲ若干變更スルコトヲ得

(3) 作戰行動又ハ長期ニ互ル輸送等ノ爲陸軍補充令施行規則第八十八條ノ檢定ヲ實施シ得サルモノハ所管長官ニ於テ適宜ノ方法ニ依リ銓衡ヲ行ヒ採用スルコトヲ得

已ムヲ得サル場合ハ採用時期ヲ若干變更シ又其ノ採用ヲ次期ニ延期スルコトヲ得採用ヲ次期ニ延期セル場合ニ於テハ速ニ陸軍大臣ニ報告スルモノトス

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 12 月 4 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

昭和十九年度第一次採用幹部候補生教育ノ爲分遣(轉屬)區分表

教育擔任部隊

要員區分

人

員

分遣(轉屬)區分

摘要

前橋陸軍豫備士官學校

步兵中隊 三六〇
機關銃 一四〇
步兵砲 一〇〇
聯隊通信 一〇〇

七〇〇

留2GDノ約六五〇
豐橋第二、仙臺豫士官校分遣隊ノ通信要員

本表以外ノ部隊ノ要員ハ在支部隊ニ在リテハ中支那下候隊ニ、在南方(除比島)部隊ニ在リテハ南方軍幹部候補生隊ニ其ノ他ニ在リテハ豐橋第一陸軍豫備士官學校ニ分遣スルモノトス

豐橋第一陸軍豫備士官學校

步兵中隊 四三〇
機關銃 一五〇
步兵砲 一一〇
聯隊通信 一一〇

八〇〇

東部軍留2GDヲ除ク
久留米第一、熊本豫士官校分遣隊ノ通信要員

豐橋第二陸軍豫備士官學校

步兵中隊 四四〇
機關銃 一五〇
步兵砲 一一〇
聯隊通信 一一〇

七〇〇

中部軍留4Dヲ除ク
除通信要員

久留米第一陸軍豫備士官學校

步兵中隊 五一一
機關銃 一七〇
步兵砲 一二〇
聯隊通信 一二〇

八〇〇

西部軍留6Dヲ除ク
除通信要員

仙臺陸軍豫備士官學校

步兵中隊 三八〇
機關銃 一二〇
步兵砲 一〇〇
聯隊通信 一〇〇

六〇〇

留4Dノ約二〇〇
留2Dノ約二〇〇
留4Dノ約三八〇
北部軍ノ步兵砲要員

熊本陸軍豫備士官學校

步兵中隊 四四〇
機關銃 一五〇
步兵砲 一一〇
聯隊通信 一一〇

七〇〇

留55Dノ約三〇〇
留6Dノ約四〇〇

保定幹部候補生隊

步兵中隊 一一〇
機關銃 四〇
步兵砲 三〇
聯隊通信 二〇

二〇〇

北支軍ノ約二〇〇

南方軍幹部候補生隊

步兵中隊 一四〇
機關銃 五〇
步兵砲 四〇
聯隊通信 二〇

二五〇

在南方部隊(除比島)

東部軍教育隊

步兵中隊 六七〇
機關銃 一五〇
步兵砲 一五〇
聯隊通信 一三〇

一一〇〇

東部軍北部軍(他ニ分遣スル者以外ノ全員)

一 航空要員トス
二 各軍ハ隸下各師團ヨリ其ノ甲種幹部候補生採用數ニ概テ比例スル如ク差出スモノトス

中部軍教育隊

步兵中隊 六七〇
機關銃 一五〇
步兵砲 一五〇
聯隊通信 一三〇

一一〇〇

中部軍(他ニ分遣スル以外ノ全員)
關東軍ノ約二五〇

西部軍教育隊

步兵中隊 六七〇
機關銃 一五〇
步兵砲 一五〇
聯隊通信 一三〇

一一〇〇

西部軍(他ニ分遣スル者以外ノ全員)
朝鮮軍ノ約二〇〇
關東軍ノ約二〇〇

北部軍教育隊

步兵中隊 三七〇
機關銃 一〇〇
步兵砲 三〇
聯隊通信 三〇

五〇〇

北部軍ノ約五〇〇
除步兵砲要員

關東軍步兵第二下候隊

步兵中隊 八〇〇
機關銃 二〇〇
步兵砲 二〇〇
聯隊通信 二〇〇

一、六〇〇

關東軍留54Dノ約三五〇
(他ニ分遣スル者以外ノ全員)

中支那下候隊

步兵中隊 九五〇
機關銃 二五〇
步兵砲 二〇〇
聯隊通信 二〇〇

一、二〇〇

支派軍(北支軍ヲ除ク)臺灣軍第十四軍除通信要員

陸軍騎兵學校

騎兵 乘車 一五〇
戰車 一〇〇

二五〇

東部軍(他ニ分遣スル者ヲ除ク)
内地各軍(他ニ分遣スル者ヲ除ク)

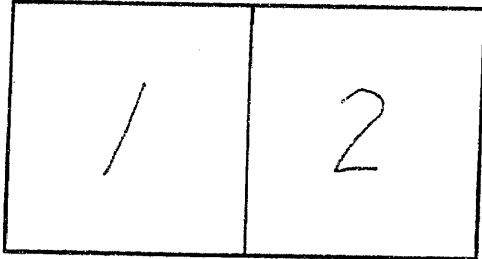

一 在滿、在支、在南方
二 育車部、在騎兵、在戰車
三 騎兵、在騎兵、在騎兵
四 陸軍騎兵、在騎兵、在騎兵
五 陸軍騎兵、在騎兵、在騎兵
六 陸軍騎兵、在騎兵、在騎兵
七 陸軍騎兵、在騎兵、在騎兵
八 陸軍騎兵、在騎兵、在騎兵
九 陸軍騎兵、在騎兵、在騎兵
十 陸軍騎兵、在騎兵、在騎兵

陸軍騎兵學校	陸軍戰車學校	陸軍戰車學校	陸軍騎兵學校	北支步兵下候隊	中支那下候隊	關東軍步兵第二下候隊	北部軍教育隊	西部軍教育隊
兵	戰車	戰車	騎兵	步兵	步兵	步兵	步兵	步兵
乘馬	戰車	戰車	乘馬	機關銃	機關銃	機關銃	機關銃	機關銃
一五〇	二〇〇	二〇〇	一五〇	二〇〇	二〇〇	二五〇	一〇〇	一五〇
一五〇	二〇〇	二五〇	一五〇	一、六〇〇	一、二〇〇	一、六〇〇	五〇〇	一、〇〇〇
東部軍45 中部軍50 西部軍50 北部軍5	內地各軍 (東部軍及他二分遺スル者ヲ除ク) 朝鮮、臺灣各軍	東部軍 (他二分遺スル者ヲ除ク)	內地、朝鮮、臺灣各軍 (他二分遺スル者ヲ除ク)	朝鮮軍(他二分遺スル者ヲ除ク) 北支軍(他二分遺スル者ヲ除ク) 關東軍步兵第二下候隊 中支那下候隊分遣部隊ノ通信要員	臺灣軍(北支軍ヲ除ク) 第十四軍 除通信要員	關東軍 (他二分遺スル者以外ノ全員)	北部軍ノ約五〇〇 除步兵砲要員	朝鮮軍ノ約一〇〇〇 關東軍ノ約二〇〇〇
約七八ノ人ヲ選定スルモ	戰車ニ含ムモノハ	戰車ニ含ムモノハ	戰車ニ含ムモノハ	戰車ニ含ムモノハ	戰車ニ含ムモノハ	戰車ニ含ムモノハ	戰車ニ含ムモノハ	戰車ニ含ムモノハ

昭和十九年度第一次採用幹部候補生教育ノ爲分遣(轉屬)區分表

陸軍習志野學校	陸軍電波兵器練習部	關東軍 高射砲下士官候補者隊	千葉陸軍防空學校	關東軍通信教育隊	關東軍通信學校	陸軍通信學校	陸軍鐵道練習部	陸軍船舶練習部	關東軍 工兵下士官候補者隊	陸軍工兵學校	陸軍重砲兵學校	關東軍 砲兵下士官候補者隊	中部軍教育隊	西部軍教育隊	東部軍教育隊	南方軍幹部候補生隊	陸軍野戰砲兵學校	久留米第一 陸軍豫備士官學校	前橋陸軍豫備士官學校	豐橋第一 陸軍豫備士官學校	保定幹部候補生隊	教育擔任部隊		
砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	
二五〇	二五〇	七〇	二五〇	八〇	二五〇	二〇〇	二五〇	二〇〇	四〇〇	一六〇	一四〇	一〇〇	二五〇	二〇〇	二〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
二五〇	二五〇	四〇〇	一〇〇〇	四〇〇	五〇〇	二五〇	二五〇	二〇〇	四〇〇	七六八	二〇〇	五五〇	三五〇	三五〇	三〇〇	五〇	三四〇	三五〇	三〇〇	四〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	
西部軍ノ五〇	中部軍ノ八〇 東部軍ノ一二〇	中部軍 西部軍(他ニ分遣スル者)	東部軍(他ニ分遣スル者) 北部軍(他ニ分遣スル者) 船舶司令部	在南方部隊(除比島)	西部軍、朝鮮軍、臺灣軍 留4D留51D	東部軍 中部軍(4Dヲ除ク) 北部軍(留54Dヲ除ク) 船舶司令部	陸軍密第一六五四號ニ依ル轉屬人員ヲ除ク全員	陸軍密第一六五四號ニ依ル轉屬人員ヲ除ク(除乙、戊)	留守第六師團、留守第五師團、支隊軍、朝鮮軍、關東軍	東部軍、支隊軍(共ニ他ニ分遣スル者)ヲ除ク	西部軍及朝鮮軍ノ野重要員	中部軍 他ニ分遣スル者ヲ除ク	東部軍ノ約一五〇〇 中部軍ノ約一五〇〇	西部軍ノ約二〇〇〇 關東軍ノ約二〇〇〇	在南方部隊(除比島)	關東軍砲兵下候隊ニ分遣スル者ヲ除ク	西部軍(他ニ分遣スル者)ヲ除ク 北部軍(他ニ分遣スル者)ヲ除ク 臺灣軍、朝鮮軍	東部軍(他ニ分遣スル者)ヲ除ク 北部軍	9D支隊軍ノ全員					
陸軍習志野學校	陸軍電波兵器練習部	關東軍高射砲下士官候補者隊	千葉陸軍防空學校	關東軍通信教育隊	關東軍通信學校	陸軍通信學校	陸軍鐵道練習部	陸軍船舶練習部	關東軍工兵下士官候補者隊	陸軍工兵學校	陸軍重砲兵學校	關東軍砲兵下士官候補者隊	中部軍教育隊	西部軍教育隊	東部軍教育隊	南方軍幹部候補生隊	陸軍野戰砲兵學校	久留米第一陸軍豫備士官學校	前橋陸軍豫備士官學校	豐橋第一陸軍豫備士官學校	保定幹部候補生隊	教育擔任部隊		

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 12 月 4 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

昭和十九年度第一次採用幹部候補生教育ノ爲分遣(轉屬)區分表

教育擔任部隊		要員區分		人員		分遣(轉屬)區分		摘要									
久留米第二 陸軍豫備士官學校	中支那下候隊	陸軍輜重兵學校	關東軍輜重兵下候隊	南方軍幹部候補生隊	戰車	工兵	步兵	砲兵	高射砲	輜重	飛行	技衛	經理	衛生	獸醫	法務	陸軍法務訓練所
轆(駄)馬	自動馬	自動馬	自動馬	轆(駄)馬	戰車	工兵	步兵	砲兵	高射砲	輜重	飛行	技衛	經理	衛生	獸醫	法務	陸軍法務訓練所
五〇〇	二〇〇	二〇〇	六五〇	五〇	一三〇	一六	一八	三四	三二	七五	二四〇	五〇〇	二二〇	一五〇	二〇〇	二五〇	二七
五〇〇	四五〇	四〇〇	六五〇	五〇	三〇五	一〇〇〇	七七〇	七七〇	五五〇	二五〇	二五〇	一、二〇〇	一、七三五	一五〇	三三〇	二〇〇	二七
内地各軍、朝鮮軍、臺灣軍	支派軍、第十四軍	内地各軍、朝鮮軍、臺灣軍	支派軍、第十四軍	在南方部隊(除比島)	關東軍	第一航空軍教育隊分遣者	關東軍	支派軍、臺灣軍、香港部	在南方部隊(除比島)	第一航空軍教育隊分遣者	關東軍	支派軍、臺灣軍、香港部	在南方部隊(除比島)	第一航空軍教育隊分遣者	關東軍	支派軍、臺灣軍、香港部	在南方部隊(除比島)
上記ノ外第一航空軍ニ於テハ陸軍第一師團ヨリ五號ニ依リ地上ノ教育ヲ擔任スルモ合テス	分遣人員ハ成ルヘク専門學校以上ノ理工科修業者ニシテ適任ナル者ヲ充ツルモノトス	船泊要員トス	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍	關東軍

0129

陸軍法務訓練所	陸軍獸醫學校	南方軍衛生教育部	北支那衛生下候教育部	陸軍軍醫學校		衛生部		陸軍軍醫學校	
				法務部	獸醫部	軍醫部	衛生部	陸軍軍醫學校	陸軍軍醫學校
法務	獸醫	軍醫	齒科	藥劑	衛生	陸軍軍醫學校	陸軍軍醫學校	陸軍軍醫學校	陸軍軍醫學校
二七	二五〇	一〇	二〇〇	三五〇	三五〇	第一回	第二回	第三回	第四回
二七	二五〇	一〇	二〇〇	三五〇	三五〇	第一回	第二回	第三回	第四回
全員	關東軍ヲ除ク全員	在南方部隊ノ全員 (除比島)	第一回 支派軍(26Dヲ除ク) 第二回 26D 關東軍、第三、 第六軍直轄部隊	第一回 支派軍 第二回 内地、朝鮮、臺灣 各軍(含航空)船司	第一回 支派軍 第二回 關東軍 第三回 (11D、12Dヲ除ク) 26D	第一回 支派軍(26Dヲ除ク)	第一回 内地、朝鮮、臺灣 各軍(含航空)船司	第一回 支派軍(26Dヲ除ク)	第一回 内地、朝鮮、臺灣 各軍(含航空)船司
	關東軍ノ者ハ第二次 教育トス								

考

備

一 本表人員ハ昭和十八年度幹部候補生中未タ分遣セサル者ヲ含ミ技術部ニ在リテハ甲、乙種區分前ノ者其ノ他ニ在リテハ甲種幹部候補生トス

二 分遣(轉屬)區分中 軍軍部 東支關 等ハ其ノ轄下指揮下ノ師團(同欄ニ掲グルモノヲ除ク)ヲ含ムモノトシ各軍ノ編合ハ昭和十九年三月一日ニ於ケルモノトシ分遣(轉屬)迄ニ編合ノ變更アリタル時ハ舊編合ノ區分ニ依ルモノトス

三 本表人員ハ各教育擔任部隊ニ於テ教育スヘキ人員ノ概數ヲ示ス
教育擔任部隊長ハ既教育者ノ狀況ニ依リ特ニ示スモノノ外其ノ要員區分ニ應スル人員ヲ若干變更スルコトヲ得

四 分遣(轉屬)ノ時期ニ關シテハ屬表ニ依ルモノトス但シ本表摘要欄ニ掲グル第二次教育要員ノ分遣(轉屬)ハ昭和十九年度第二次採用幹部候補生ト同時トス

五 陸軍兵器行政本部、陸軍兵器學校、陸軍軍醫學校、陸軍經理學校ニ於テ教育スヘキ者ハ分遣(轉屬)ノ期日ニ於テ當該學校(部)ニ轉屬スルモノトス

六 本表中騎校、四戰校、重砲校、工校、輜校、通校、習校ニ在リテハ下候隊ヲモ使用スルモノトス

幹部候補生携行兵器員數表

兵 科 部	品 目	員 數
兵 科 (技術部及經理部ヲ除ク)	當該兵科部要員軍曹(伍長)ノ平時携帶兵器、兵器用物品(練脂器、腔中塗油紐ヲ含ム) 步兵軍曹伍長ノ平時携帶兵器、兵器用物品(練脂器、腔中塗油紐ヲ含ム)	全 部
技 術 部	歩兵軍曹伍長ノ平時携帶兵器、兵器用物品(練脂器、腔中塗油紐ヲ含ム)	全 部
備 考	一 本表品目ノ外小銃携帶者ハ小銃擬製彈一五ヲ携行セシムルモノトス 二 技術部兵技幹部候補生ニ在リテハ三十年式銃劍一ノミトス 三 陸軍豫備士官學校同時兵學校、同工兵學校、同輜重兵學校又ハ四平陸軍戰車學校ニ分遣スル者ハ小銃ヲ携行セサルモノトス但シ外地ニ於ケル旅行間ハ所要ニ應ジ之ヲ携行セシムルモノトス 四 外地ニ在ル教育擔任部隊ノ所管長官ハ當該教育擔任部隊ニ分遣セラルル者ノ携行裝備ニ關シ適宜定ムルコトヲ得	

01310

第一次採用者集合教育ノ爲ノ分遣(轉屬)期日及期間

教育擔任部隊	分遣(轉屬)期日	分遣期間
仙臺陸軍飛行學校	昭和十九年五月一日	整備(武裝) 概ネ十月 通信(航測) 概ネ八月
第一航空軍		其ノ他 概ネ六月
立川陸軍航空整備學校	昭和十九年五月一日	航 技 概ネ十月
陸軍野戰砲兵學校(氣球ノミ)	昭和十九年五月一日	概ネ五月
陸軍電波兵器練習部	昭和十九年五月一日	概ネ四月
千葉陸軍防空學校	昭和十九年七月一日	概ネ五月
關東軍高射砲兵下士官候補者隊	昭和十九年五月一日	概ネ六月
陸軍經理學校		
關東軍經理部教育部署	昭和十九年七月一日	概ネ六月
中支那北支那經理部下士官候補者教育部		
陸軍醫學校	第一回 昭和十九年五月一日 第二回 昭和十九年八月一日 第三回 昭和十九年十一月一日	概ネ三月
北支那衛生下士官教育部		
南方軍衛生教育部	昭和十九年五月一日	概ネ八月
其他	昭和十九年五月一日	

考 備

- 一 氣球甲種幹部候補生ハ野戰砲兵學校ノ教育ニ引續キ氣球隊ニ於テ、電波要員ハ電波兵器練習部ノ教育ニ引續キ千葉陸軍防空學校ニ於テ各約三月間本規定ニ依ル集合教育ヲ行フモノトス
- 二 技術部乙種幹部候補生ハ甲、乙種區分後概ネ二月ヲ以テ集合教育ヲ終了スルモノトス
- 三 兵科甲種幹部候補生ニシテ集合教育概ネ八月ニ滿タサルモノハ本規定ニ依ル集合教育終了後所管長官ニ於テ概ネ八月ニ滿ツル期間迄教育ヲ實施スルモノトス
- 四 所定ノ期日迄ニ分遣シ得サルモノノ取扱ニ關シテハ昭和十六年十一月陸普第八六〇九號ニ依ルモノトス
- 五 教育擔任部隊中幹部候補生ノ取扱竝ニ報告等ニ關シ特ニ規定セラレアラサルモノハ昭和十四年勅令第五七八號陸軍諸學校幹部候補生教育令ヲ準用スルモノトス

第二、第三次採用者ニ對スル階級附與期日修業期間

考 備	昭和二十二年										昭和二十九年				年			
	二月二十八日	十一月三十日	九月三十日	五月三十一日	五月一日	四月一日	二月一日	一月一日	十二月十日	十二月一日	九月十日	八月十日	七月十日	六月十日	月	日		
<p>一 階級ヲ進ムル期日ニシテ集合教育ノ爲入校(入隊)期日ト同一ナル場合ハ集合教育擔任部隊長ノ命令ニ依リ階級ヲ進ムルモノトス</p> <p>二 甲種幹部候補生ヲ曹長ノ階級ニ進メ見習士官ヲ命スルハ集合教育終了ノ日トス</p> <p>三 甲種幹部候補生ニシテ修業期間満了ノ翌日ニ少尉ニ任官セサルモノハ特ニ示スモノノ外引續キ任官前日迄修業期間ヲ延長ス</p> <p>四 已ムヲ得サル場合ハ所管長官ニ於テ本表ニ掲クル階級ヲ進ムル期日ヲ若干變更スルコトヲ得</p>			修業期間満了				技術部軍曹ノ階級ニ進ム		技術部甲乙種ニ区分シ甲種ハ伍長ノ階級ニ進ム	軍曹ノ階級ニ進ム		伍長ノ階級ニ進ム	甲、乙種ニ区分ス(技術部ヲ除ク)	上等兵ノ階級ニ進ム	採用シ一等兵ノ階級ヲ與フ	第二次採用者	第三次採用者(航空ノミ)	
				修業期間満了	優秀者軍曹ノ階級ニ進ム			技術部伍長ノ階級ニ進ム		伍長ノ階級ニ進ム								
						伍長ノ階級ニ進ム												

0133